

明日香村整備基本方針(案)について

明日香村整備基本方針の構成

○現行の基本方針（第4次）の構成を踏襲しつつ、令和元年7月の社会資本整備審議会答申の内容を反映

新たな明日香村整備基本方針(案)

1 明日香村における生活環境及び産業基盤の整備等に関する計画作成の意義

2 整備計画の期間

3 整備計画の基本的方向

(1) 整備計画作成にあたっての基本理念

- ① Society5.0の実現を通じた新たな価値の創出
- ② 歴史的風土の再評価と国内外への訴求力向上
- ③ 農村環境の動的保存と祭礼行事の活性化
- ④ 農業・観光業の振興による雇用拡大等を通じた定住環境整備

(2) 整備等の方向

- ① 明日香の歴史を体感できる歴史展示の推進
- ② 営農環境の基盤整備及び自然的環境の保全
- ③ 地域の祭礼行事・伝承芸能の継承・発展
- ④ 明日香らしさが体感できる観光振興
- ⑤ 村民が定住できる生活環境基盤の整備
- ⑥ その他

(3) 諸計画との整合性等

(4) その他の留意事項

明日香村整備基本方針(現行)

(平成22年5月28日国土交通大臣決定)

1 明日香村における生活環境及び産業基盤の整備等に関する計画作成の意義

2 計画の期間

3 計画の基本的方向

(1) 計画作成にあたっての基本理念

- ① 歴史的風土にふさわしい景観の維持・向上
- ② 歴史的文化的遺産の保存と利活用の推進
- ③ 歴史的風土を活用した地域産業振興による地域活力の向上

(2) 整備等の方向

- ① 歴史的風土にふさわしい景観の維持・向上
- ② 歴史的文化的遺産の保存と利活用の推進
- ③ 歴史的風土を活用した地域産業振興による地域活力の向上
- ④ 生活環境の整備の推進
- ⑤ その他

(3) 諸計画との整合性等

(4) その他の留意事項

新たな明日香村整備基本方針(案)の概要

1 整備計画作成の意義

明日香村は、飛鳥時代の歴史的文化的遺産と自然的環境や農村環境、歴史的な町並み、祭礼・行事等が一体となって特色ある歴史的風土を形成している。人口減少や少子高齢化、地域産業の伸び悩みといった課題の中で、世界に誇るべき歴史的風土を次世代へ引き継いでいくため、令和2年度以降も歴史的風土の保存と調和のとれた総合的計画を作成することが必要。

2 整備計画の期間

令和2年度～令和11年度
(10年間)

3 整備計画の基本的方向

(1) 整備計画作成にあたっての基本理念

以下の各点を基本理念として念頭に置くとともに、立ち遅れた公共施設の整備水準の向上を最優先する段階から、地域の実情に応じた望ましい発展を目指す段階にあることを鑑み、明日香村の主体性を活かし、村の自立性を高めていくことが必要。

① Society5.0の実現を通じた
新たな価値の創出

② 歴史的風土の再評価と
国内外への訴求力向上

③ 農村環境の動的保存と
祭礼行事の活性化

④ 農業・観光業の振興による
雇用拡大等を通じた定住環境整備

国・県・村の連携とともに、民間事業者や関係団体との役割を再整理した上で、行政も含めた連携・協働を推進

(2) 整備等の方向

基本理念を具現化するため、以下の5つの観点から各種施策を位置づけ、推進を図る。

① 明日香の歴史を体感
できる歴史展示の推進

② 営農環境の基盤整備及び
自然的環境の保全

③ 地域の祭礼行事・
伝承芸能の継承・発展

④ 明日香らしさが
体感できる観光振興

⑤ 村民が定住できる
生活環境基盤の整備

(3) 諸計画との整合性等

既存の諸計画との整合性を保つよう配慮する。

(4) その他の留意事項

社会経済情勢の推移や遺跡調査の進捗に応じた弾力的な運営を図る・基礎的データの収集・調査・アーカイブ化を進めるなど、計画事業の効果的な実施に配慮する。

①明日香の歴史を体感できる歴史展示の推進

現状の課題と対応状況

- 古代以外の多様な歴史的資産の価値付けと情報発信が不足し、潜在的価値を活かしきれていない状況。
- 明日香村の歴史や歴史的風土の全体像についてのテーマ・ストーリー設定、個々の歴史的文化的遺産の解説が不十分。
- この状況に対して、村では「明日香まるごと博物館構想」に基づく村づくりを推進するとともに、世界遺産登録を目指している。



取組の方向性

- 明日香村の歴史的風土は多様な歴史的資産が重層性をもって形成されていることを改めて評価し、保存・活用施策を展開。
- ストーリー性があり、歴史的風土の価値をあらゆる世代がわかりやすく認識できる歴史展示を推進するとともに、周辺地域との連携により世界遺産登録を実現し、その価値を世界に訴求。
- 高松塚古墳壁画等のキラーコンテンツとしての育成が必要。
- AR・VRやビッグデータ等を活用した歴史展示手法の導入を促進。



歴史を分かりやすく伝える手法（アプリやVRの活用）

基本方針（案）

- 明日香村の歴史的風土が重層的に積み重なって成立していることを改めて再評価するとともに、「明日香まるごと博物館構想」と一体となって保存・活用施策を促進。
- 多様な来訪者の誰もが明日香村の歴史的風土の価値やその全体像が理解できるよう、関係機関が連携して、既存施設も含めた展示施設のあり方や展示手法について検討することが必要。



飛鳥京歴史ぶらりアプリ



② 営農環境の基盤整備及び自然的環境の保全

現状の課題と対応状況

- ・農業従事者の高齢化・担い手不足を背景に、耕作面積の減少、耕作放棄地の増加、古都法買入地の管理水準の低下等が進行し、歴史的風土の構成要素である農村環境の悪化が懸念。
- ・農業の生産形態は少量多品目・露地栽培中心のため、大規模な流通が困難であり、農産物加工品は安定供給が課題。
- ・オーナー制度はインストラクターの高齢化、会員数の減少が課題。



里山管理（広葉樹の植樹）

取組の方向性

- ・歴史的風土の保存には、「現状凍結的な保存」に加え、農地や里山等としての利用を通じた「動的な保存」が必要。
- ・樹林地の管理は、民間との連携等を積極的に図るべき。
- ・戦略的な6次産業化や販路の拡大を通じた稼げる農業の推進、新規就農者の獲得や農地の流動化の推進による担い手確保が必要。
- ・ICTを活用したスマート農業の推進等による営農継続施策を展開。



民間企業と連携した体験農園

基本方針（案）

- ・明日香村の自然的環境や農村環境は今日的には明日香らしさや歴史的風土を象徴する重要な要素であるため、農地や里山等としての利用を通じた「動的な保存」や民間との連携も視野に入れながら、その管理や利活用の具体的な方針を示し、具体的施策を推進。
- ・農業のあり方を十分に検討し、担い手の確保を図りつつ、6次産業化や新技術の活用の一層の推進を通じた稼げる農業を促進。



稼げる農業の促進

アスカルビーの栽培普及

飛鳥ブランドのPR

③地域の祭礼行事・伝承芸能の継承・発展

現状の課題と対応状況

- 地域の祭礼行事等は担い手不足により存続の危機にあるものもあり、観光客の認知度も低く、村の魅力として伝わっていない状況。
- 村では歴史文化基本構想を策定し、歴史文化の保存の方向性を打ち出すとともに、「古代飛鳥文化祭」の開催、郷土学習プログラムの導入等により、祭礼行事等の魅力を村内外に発信。



取組の方向性

- 祭礼行事は、村民の誇りの醸成や観光振興に資するものであり、その価値を再評価した上で、具体的な保存活用計画を作成し、行事の活発化やそれを通じた担い手の確保・育成を推進。
- 祭礼行事を活用した体験型観光の充実等の新たな施策の検討、近年の文化芸術振興に係る取組の継続・発展等にも取り組むべき。

基本方針（案）

- 村内の祭礼行事等の価値を改めて評価した上で保存・活用を促進するための具体的な計画を示す。
- 伝統的な祭礼行事を活用した体験型観光の充実や、対外的な情報発信を促進するとともに、村内における文化芸術振興に向けた新たな取組についても新たな文化として育成を図る。

④明日香らしさが体感できる観光振興

現状の課題と対応状況

- ・個別の観光スポットの全国的な認知度が低いこと、宿泊客の割合が低いこと、外国人観光客の増加が鈍いことが課題。
- ・観光に係る総合的な計画がなく、ニーズ調査が不十分であるため、多様な観光資源を国内外に効果的に発信できていないこと、宿泊施設の不足により滞在型観光の需要を取り込めていないことが一因。
- ・これを受け、村では民家ステイ等による宿泊施設確保や道の駅の整備等による観光客の受入れ環境整備に取り組んでいる。

古民家改修によるゲストハウス整備



民家ステイ



体験型プログラム



農業体験



史跡解説

取組の方向性

- ・明日香村の歴史的資産は、国内外に訴求力のある観光資源であり、オーバーツーリズム等に留意しつつ、積極的に活用すべき。その際、宿泊型・滞在型観光、インバウンドに重点を置くことが必要。
- ・観光に係る総合的かつ戦略的な計画の検討、体制の強化を官民連携で推進した上で、戦略的なプロモーションを行うべき。
- ・宿泊施設数の拡大、体験型コンテンツの充実、新技術を活用した移動手段の充実等の受入環境整備を推進。

既存ストックの活用による観光交流拠点の整備



従前の空き家


 空き家再生により
駅前オープンしたカフェ

基本方針（案）

- ・国内外の観光客のニーズを把握したうえで、土地利用のあり方も含めた観光に係る総合的かつ戦略的な計画を検討・立案し、村内の歴史的資産を生かした観光振興を推進。
- ・宿泊型・体験型観光の推進や、新技術を活用した受入環境の整備、専門家や民間団体との連携による体制強化の促進を図ることが必要。

道の駅「飛鳥」と総合案内所のオープン



総合案内所「飛鳥びとの館」



観光情報の提供

⑤ 村民が定住できる生活環境基盤の整備

現状の課題と対応状況

- 生活環境基盤の整備は進捗する一方、人口減少・少子高齢化の進行が顕著であり、H29年度には過疎地域に指定。
- 古都保存法に基づく規制により住居の取得・改修費用が割高なこと、村内で雇用の場を十分に確保できていないことが一因。
- これに対し、村では宅地整備や企業誘致により定住環境を整備。

基盤インフラの整備



小型モビリティの活用



民間企業との連携による雇用創出



取組の方向性

- 歴史的風土の保存は、村民の生活があってこそ成り立つものであり、定住促進に資する生活環境基盤の整備は極めて重要。広域連携の推進、ハード・ソフト両面からニーズへの対応に留意して進めるべき。
- 農業・観光業の基幹産業化による雇用拡大・求職ニーズとのマッチングや、既存ストックの活用による住まいの確保の負担軽減を推進。

公有地を活用した宅地整備



産業活性化バンクによる事業者支援



基本方針（案）

- 歴史的風土の保存と住民生活との調和を図るため、広域連携も視野に入れた道路、河川、下水道、都市公園、住宅等の生活インフラの整備のほか、地域防災の強化・地域コミュニティの醸成に寄与する拠点や自動運転等の導入も視野に入れた交通インフラの整備、公共インフラの長寿命化対策など、ハード・ソフト両面から少子高齢化等の今日的なニーズへ対応することが必要。
- 企業誘致による村内の雇用拡大や産業振興等の取組を通じて、農業・観光業の基幹産業化を図るとともに、既存ストックの活用等による住まいの確保の負担軽減の推進等により、村内への定住を促進。